

彙 報

会 長 梅 田 博 之

平成7年度第2回常任委員会

日 時：平成7年9月2日（土）午後1時～5時15分

場 所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所第一研修室

出席者：梅田博之（会長），坂本比奈子（事務局長），荻野綱男，角田太作，長野泰彦，吉田和彦

オブザーバー：大野仁美，副島昭夫（事務局長補佐）

議事と報告

- (1) 第111回大会（平成7年度秋季大会）について，講演者・研究発表者などの詳細を決めた（応募件数51件，採用39件）。また，試行的に作成する予稿集の概要を決定した。
- (2) 第112回大会（平成8年度春季大会）は，麗澤大学（千葉県柏市）で平成8年6月15日（土）・16日（日）両日に行なうこととした。大会運営委員長は北村甫氏である。
- (3) 来年度科学研究費補助金審査委員候補者の推薦依頼（継続）について：昨年度に引き続き，第一段審査に井上史雄氏・上野善道氏を推薦，第二段審査については，柴谷方良氏が海外出張中で辞退されたため，選挙の得票順に基づき井出祥子氏・湯川恭敏氏・田村すず子氏を推薦した。
また，平成8年度から10年度までの時限付きで「談話」という分科細目が新しく設けられることになり，その審査委員候補者として，西原鈴子氏・菊地康人氏を推薦することに同意した。
- (4) 当学会に対する平成7年度文部省科学研究費補金交付決定額は60万円である旨，報告があった。
- (5) 選挙制度検討小委員会を第111回大会前日に開催する旨，報告があった。

- (6) 危機に瀕した言語のための検討小委員会を第111回大会前日に開催する旨、報告があった。
- (7) その他
 - 〈ア〉 日本学術会議より「学術会議便り」を学会誌に掲載するよう要請が来たが、当面見送ることとした。
 - 〈イ〉 文部省科学研究費補助金分科細目「談話」の新設について会員に周知させるため大会案内の余白にその旨を掲載することにした。

平成7年度第2回委員会

日 時：平成7年10月14日（土）午前10時～11時30分

場 所：東北大学 文学部会議室

出席者：梅田博之（会長）、坂本比奈子（事務局長）、上野善道、荻野綱男、加藤正信、神尾昭雄、国広哲弥、崎山 理、庄垣内正弘、杉戸清樹、田村すず子、土田 滋、角田太作、西田龍雄、原口庄輔、松村一登、松本克己、宮岡伯人、村崎恭子、湯川恭敏、吉田和彦（以上21名）

委任状：39名

オブザーバー：大野仁美、副島昭夫（事務局長補佐）

議事に先立ち大会運営委員長平野日出征氏より挨拶があった。

議事と報告

- (1) 会長から平成7年度第2回常任委員会について報告があった。
- (2) 第111回大会について、研究発表件数が多く、第110回大会に引き続いて4会場になったこと、司会のお願い等の報告があった。
- (3) 第112回大会（平成8年度春季大会）については、平成8年6月15日（土）・16日（日）に麗澤大学で行うことに決定した。
- (4) 平成8年度文部省科学研究費の審査委員候補者の推薦（前年度より継続）について：昨年度に引き続き、第一段審査に井上史雄氏・上野善道氏を推薦、第二段審査については、柴谷方良氏が海外出張中で辞退されたため、選挙の得票順に基づき井出祥子氏・湯川恭敏氏・田村すず子氏を推

薦した。また新設の平成8年度～10年度の時限付き分科細目「談話」について、常任委員会の了承を得たうえで会長が西原鈴子・菊地康人の両氏を推薦した旨報告があった。

(5) 危機に瀕した言語のための検討小委員会について、小委員会事務局長坂本比奈子氏より、組織面・活動内容等今後の方針についてさらに議論を進めて行くという中間報告があった。

(6) 選挙制度検討小委員会について、取りまとめ役の坂本比奈子氏より、選挙方法の理念を変える必要はないが、経費節減という点から検討を行なったという報告があった。

(7) その他

〈ア〉 宮岡伯人編集委員長より『言語研究』の編集経過および投稿傾向の報告があった。

〈イ〉 試行的に作成した予稿集が回覧され、作成に尽力した荻野綱男氏に委員会として感謝を表した。また、予稿集作成に伴う学会開催時期の調整の必要の有無等、今後の方針について検討した。

〈ウ〉 津田塾日本語教育センターより、シンポジウムの開催は今年度は見合わせる旨連絡があった。

〈エ〉 学術用語集について経過報告があった。青戸専門委員の校閲の結果について、英語学会と言語学会でそれぞれ検討中である。

〈オ〉 学術情報センターより、言語学会に画像システムによる電子図書館システム試行に参加依頼があったが、今回は見合わせることにした。

第111回大会

期 日 1995年10月14日(土)～15日(日)

会 場 東北大学・川内文系キャンパス

第1日(10月14日)

講演会 午後1時30分～5時

開会の辞

開催校挨拶

公開講演

言語地図と行政

加藤正信

上代日本語の音韻をめぐって

早田輝洋

会員懇親会 午後6時～8時

第2日(10月15日)

研究発表 午前9時30分～12時20分

○A 会場

(A 1) 9:30～ 日本語日常談話における誉めとその返答に 丸山明代
関する数量的研究

(A 2) 10:00～ テレビインタビューにおける談話分析 高木佐知子
—frameのシフトと会話者間の心理的距離
について—

(A 3) 10:50～ 談話における「でも」の機能について 曹永湖

(A 4) 11:20～ 日本語の小説における引用構文の談話的 北上光志
働き

(A 5) 11:50～ コーパスとしての新聞記事テキストデータ 後藤 斉
—終助詞「かしら」をめぐって—

○B 会場

(B 1) 9:30～ 日本語の「不定称代名詞」に関する一考察: 中村美代子
「どこ, どこか, どこでも, どこも」

(B 2) 10:00～ 失文法患者の産出文に見られる到達点を表 井原浩子
す「に」と起点を表す「から」の非対称性に 藤田郁代

ついて

- (B 3) 10:50~ 日本語における「うそをつく」という行為 西村 史子
に関する考察
- (B 4) 11:20~ 日本語複合動詞にみられるメタファーの 井口 景子
実現形式
- (B 5) 11:50~ 動詞の中心的意味と比喩的意味の関係 杉浦 滋子
—日本語の「ナガレル」と「ナガス」を例
として—

◦C 会場

- (C 1) 9:30~ A Cross-Linguistic Study of Prosodic Unit 栗栖 和孝
in Japanese and English
- (C 2) 10:00~ fuzzy member を持たないカテゴリーの構成 飯田 朝子
について
- (C 3) 10:50~ θ 理論と派生における θ 役付与について 三好 暢博
- (C 4) 11:20~ 中身—空所構文の理解プロセス 一尾 朱美
—「空範疇 (Empty Category)」の心理的
非実在性—
- (C 5) 11:50~ Synchrony can do without changing 高橋 直彦
rules/conventions

◦D 会場

- (D 1) 9:30~ ブヌン語(南部方言)における「分類接頭辞」 野島 本泰
- (D 2) 10:00~ ウゴル語における動詞形態論： 野瀬 昌彦
特に受動形態素に関して
- (D 3) 10:50~ ロシア語の経験者と格構文と主語 山田 久就
- (D 4) 11:20~ 韓国の企業における敬語運用の実態 姜 錫祐
—韓国企業への日本語影響説をめぐって—
- (D 5) 11:50~ 韓国語における平音, 濃音, 激音の対立に 吉岡 博英
関する構音動態 金 順愛

研究発表 午後1時20分~3時40分

◦A 会 場

- (A 6) 1:20~ 「てやる」構文の概念意味論 田中裕司
 (A 7) 1:50~ 「が・の交替」に課せられる語用論的条件 堀江 薫
 に関する一考察 斉藤紀子
 (A 8) 2:40~ 過去形の使用に関わる語用論的要因 井上 優
 ー日本語と朝鮮語の場合ー 生越直樹
 (A 9) 3:10~ 日本語の受け身：語用論的分析 神尾昭雄

◦B 会 場

- (B 6) 1:20~ 水海道方言の4つの斜格 佐々木 冠
 Daniela Caluianu
 (B 7) 1:50~ 非対格仮設と琉球方言 本田謙介
 (B 8) 2:40~ 日本語の評価的文副詞を示す形態について 西川 真理子
 ー「も」を中心にー
 (B 9) 3:10~ 日本語の目的語前置文の機能的分析 秋月 高太郎

◦C 会 場

- (C 6) 1:20~ 英語における表層照応・深層照応と会話の 大津隆広
 含意
 (C 7) 1:50~ 英語に於ける能格構文について 有吉 淳一郎
 (C 8) 2:40~ The Acquisition of Semantic Relations 窪田 美穂子
 in English

◦D 会 場

- (D 6) 1:20~ 日系ブラジル人と日本人の心内辞書表示の 大竹孝司
 単位について ーモーラと音節ー 米山聖子
 篠木 れい子
 (D 7) 1:50~ 満漢対音資料における漢字音表記のゆれに 山崎雅人
 ついて
 (D 8) 2:40~ Sandhi rules in Frisian and variability in 岡部夕里
 their manifestations
 (D 9) 3:10~ ロズィ語の性格 湯川 恭敏

◇ 本誌は、文部省平成7年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の交付を得て刊行されたものである。